



卒業を心よりお祝い申し上げます  
 二〇〇五年三月二十五日  
 学校法人 駿河台大学

理事長 山崎春之  
 理事 竹下守夫  
 吉田邦久  
 河上和雄  
 森 茜  
 山崎荘太  
 山畔清明  
 梶木隆一  
 山下 薫  
 松本 香  
 樋口一夫

# 駿河台大学同窓会報

第8号

発行  
 駿河台大学同窓会  
 事務局

〒357 8555  
 埼玉県飯能市阿須698

☎(042)972 1101  
 ホームページ  
<http://www.surugadai.ac.jp/dousou/index.html>

## 若人が、期待を胸に新たなスタートへ 平成16年度卒業式報告

平成16年度卒業式が平成17年3月25日(金)に本学体育館にて挙行された。

平成16年度の卒業生は法学部362名、経済学部323名、文化情報学部278名、現代文化学部154名の合計1,117名であり、新たに同窓会メンバーとして加わることになった。

本年度の答辞を述べたのは、文化情報学部文化情報学科馬場瑠璃子さん。来賓には保阪正康氏(ノンフィクション作家・評論家)をお迎えした。卒業式終了後は、教室において卒業生全員に卒業証書が手渡された。その後は、場所を飯能フリスホテルに移し、コメントメントパーティーが開催され、恩師や友人との思い出話に花を咲かせていた。会場内は、大学生活を満身に終えた顔や、これからの社会人生活に期待する顔が満ち溢れ、盛況のうちに幕を閉じた。



### 平成16年度 総代・答辞・各賞受賞者一覧

総代

法学研究科

小井田 充(私立宇都宮短期大学付属高等学校)

経済学研究科

土屋 登(私立足利工業大学付属高等学校)

文化情報学研究科

手塚 知代美(私立貞静学園高等学校)

法学部法律学科

PARK TAE OW(韓国出身)

経済学部経済学科

西澤 宏史(埼玉県立飯能高等学校)

経済学部経営情報学科

新井 美絵(私立狭山ヶ丘高等学校)

文化情報学部文化情報学科

JIN XIANG YUE(中国出身)

文化情報学部知識情報学科

岩崎 憲江(私立埼玉平成高等学校)

現代文化学部比較文化学科

上船 優美(私立狭山ヶ丘高等学校)

答辞

文化情報学部文化情報学科

馬場 瑠璃子(都立光丘高等学校)

優秀賞

法学部法律学科

中嶋 弥生(山形県立鶴岡北高等学校)

経済学部経済学科

山下 健紀(私立保善高等学校)

経済学部経営情報学科

小林 祥子(都立八王子高陵高等学校)

文化情報学部文化情報学科

春岸 栄太郎(私立岩倉高等学校)

文化情報学部知識情報学科

QIU GUO WEI(中国出身)

現代文化学部比較文化学科

澤崎 真希

菩提樹賞

法学部法律学科

大塚 美美子(私立大宮開成高等学校)

小川 恵二(都立八王子高陵高等学校)

金田 純一(埼玉県立岩槻高等学校)

小林 正樹(私立長野日本大学高等学校)

中島 美妃(私立星野高等学校)

廣瀬 久美子(埼玉県立人間向陽高等学校)

藤原 一則(私立東野高等学校)

宮崎 一朗(宮城県立石巻西高等学校)

米澤 健(私立富山第一高等学校)

吉井 絵里(千葉県立銚子西高等学校)

経済学部経済学科

植木 健文(私立関根学園高等学校)

片岸 裕彰(私立東和大学付属昌平高等学校)

加藤 篤史(都立志村高等学校)

齊藤 宏明(都立高島高等学校)

経済学部経営情報学科

相澤 隆広(埼玉県立深谷第一高等学校)

坂本 三奈(埼玉県立所沢商業高等学校)

中村 友美(長野県上田東高等学校)

HAN YONG JUN(中国出身)

文化情報学部文化情報学科

小田 恵美子(埼玉県立人間向陽高等学校)

黒井 孝治(山形県立鶴岡中央高等学校)

WANG CHUN PENG(中国出身)

文化情報学部知識情報学科

大澤 紀恵(埼玉県立福岡高等学校)

片桐 浩(都立小平西高等学校)

亀岡 文枝(都立清瀬高等学校)

現代文化学部比較文化学科

篠崎 千鶴(栃木県立宇都宮北高等学校)

杉山 邦子(埼玉県立松山女子高等学校)

CHEONG JIN YOUNG(韓国出身)

特別賞

法学部法律学科

大内 敬太(県立蓮田高等学校)

大貫 智彦(県立土浦湖北高等学校)

加藤 哲平(私立中京商業高等学校)

倉森 健(県立大宮南高等学校)

中村 秀和(市立浦和南高等学校)

平野 愛(県立朝霞西高等学校)

経済学部経済学科

平林 伸浩(県立浦和東高等学校)

経済学部経営情報学科

小村 健志(県立山北高等学校)

文化情報学部知識情報学科

佐藤 能子(県立須賀川高等学校)

現代文化学部比較文化学科

天野 美佳(私立東海大学菅生高等学校)

吉岡 美智枝(県立金沢北陵高等学校)



# 退任教授からのメッセージ

## 駿河台大学の思い出 文化情報学部教授 原田 三朗



1960年代末の大学紛争以来、文部省担当記者、編集委員、論説委員として高等教育に関わってきた。大学について多くの論評を書いた。新聞記者の30年から大学教授に

転身し、大学の内部で多様な経験をすると、まったく想像できなかった。

1990年の創設時に経済学部に着任し、マスコミを教えた。法学部と経済学部では2年生のゼミを担当した。いまでも訪ねてくる卒業生がいる。15年間の教員生活で、300人以上とゼミをとにした。講義やサークルで関わった学生も少なくない。これほど多くの若者たちとの利害を超えた交流は、現実の社会ではあり得ない。それこそが、大学教授の至福なところ。新設大学の歩みは苦しい。歴史という資産を形成するまでが大変である。学生諸君には、Something NewとChallenge の2語を訴え続けたい。知識は大学を出てからが身に付く。大学の4年間に、人生と社会に対する態度形成の方が重要である。この2語はそのキーワードだ。

これまでに文化情報学部、文化情報学研究所、現代情報文化研究所の創設準備に準備委員として関わった。貴重な経験である。組織は、自律的に生成する。創設の理想が必ずしも実現したわけではないが、それなりに発展する姿を見ることも楽しい。山崎総長を先頭にメディアセンターの構想と設計に関与したことも忘れがたい記憶である。いずれも、その時の最先端のデザインを構想し実現できた。大学の外から高等教育のあるべき姿を論評し、大学の内でその姿が形となることを体感する。これ以上の幸せがあるだろうか。

企画広報委員長を10年間務めた。不祥事にはまずマスコミに頭を下げる役割と覚悟したが、そのようなことはなかった。「駿河台大学ニュース」を創刊し、公開講座を「市民の大学」に変えたことも思い出だ。これからは、自分に与えられた経験と知識を社会に返すために、主として、大学の外と内の中間でこの二つをつなぐような仕事をする予定である。

## 高畠 通敏 法学部教授 ご逝去 ご冥福をお祈りいたします



本学教授、高畠通敏教授（たかはたけみち）は7月7日（水）、東京都内の病院で肝不全のため逝去されました。享年70歳。

1933年生まれ。東大法学部政治学科卒。同大で京極純一教授に師事して計量政治学を専攻し、のち選挙の計量分析や市民政治の理論構築につとめた。本学には立教大学退職後、1999年4月、法学部教授として就任。本年4月からは特任教授に就任。

本学ではとくに企画広報委員会、就職委員会、並びに共同研究費委員会の業務に尽力され、2003年1月、法学研究科長予定者に選出されたが、同年3月、病魔に襲われ、就任を辞退。

朝日新聞で1981年から82年にかけて「論壇時評」を担当され、『政治学への道案内』『政治の論理と市民』『自由とポリテイク』『地方の王国』『市民政治再考』など多くの著書を執筆。

### 高畠通敏教授へのお別れのごは

法学部長 加藤 敏雄

高畠通敏教授は、1999年4月に本学法学部教授に就任された後、本年4月には特任教授に就任されたばかりでした。これから法学部の看板教授の一人としてなお一層活躍し、ご指導を仰ぎたいと思っただけに、まことに残念です。

先生はご生涯の研究を通じて市民政治論を構築する一方、授業後に声かけ久保にある先生の山荘でゼミ生や院生らと交え、月明かりの下、時には夜を徹して、市民政治の何たるかを激論するのを楽しまれる気さくな先生でもありました。その意味で、先生は単に書齋の中の研究者にとどまらない真の教育者でもありました。

他方で、市民政治の実相から現代政治を鋭角に分析する語り口はきわめて厳しく、リアリティに富んでおりました。本学にご就任された年の1999年秋、比較法研究所主催で講演された「政党政治の将来」（「比較法文化」に収録）を傍聴する機会がありました。先生は其中で、現代日本の政党政治の欠陥を鋭く指摘され、21世紀の政治に不可欠な無党派層を基盤する政党政治のあり様を小気味よく説かれたのを今も鮮明に覚えております。

肉体は滅びても、先生の構築された市民政治論は後塵を拝す多くの研究者の指針になりうることを確信し、心からご冥福をお祈りする次第です。合掌。

## 沼田 誠 経済学部教授 ご逝去 ご冥福をお祈りいたします



本学教授、沼田誠教授（ぬまたまこと）は12月24日（金）ご逝去されました。享年55歳。1949年生まれ。静岡大学人文学部人文学科卒。

1995年駿河台大学経済学部へ赴任。大学時代から農村史研究を専攻し、一橋大学大学院社会学研究科で本格的な研究生生活を始めた。その後千葉の敬愛大学から本学に助教として赴任した。96年に教授に昇格し、2001年には東京大学農学生命科学研究科から農学博士を取得した。その博士論文は、2001年日本経済評論社から『家と村の歴史的位相』として刊行され、高い評価を得ている。

また、本学においても、大学評議員、経済学部入試委員長、教務委員長と幅広くご活躍された。

### 沼田 誠教授を悼む

経済学部長 鎗田 英三

経済学部の大学評議員で教務委員長の沼田誠教授が昨年末の12月24日に急逝された。腰椎大動脈瘤剥離という病名で、わずか数分の間に召されてしまった。55歳の働き盛りであった。2ヶ月たつ

た今でも信じられない。今朝もまた、あの笑顔を見よっころ見せるのではないかと向かいにある彼の研究室を眺めていた。

一流の研究者であった沼田教授は、教育者としても本学にはかけがえのない存在であった。大きな声と黒板を真っ白にする板書が特徴の情熱あふれる経済史と日本経済史の講義は経済学部の名物講義の一つであったし、教授の演習は毎年希望者が多く選考するのが常であった。本学の教育目標の「愛情教育」を教授は率先しておこなっていたのである。

だが、それらに増して私たちに与えて大きかったのは、教授が大学生生き残り競争の中、大学評議員、経済学部入試委員長、教務委員長として本学の大学改革に献身的に活動していただいたことである。誠という名のとおり、その誠実な性格でご自分を犠牲にしなから学部、大学の改革に取り組んでくださった。一年間大学での授業を受けた後の学科選択や地域人講師団や地域インターンシップなど、地域と大学の共有ネットワーク、やキャリア教育システムのスタートは、常に学生や地域の目線からものを見ようとする沼田教授なしではなしえなかった。

私たち教職員、学生は沼田先生から多くのことを学んだ。同じ人間として誰にでも誠実に接すること、生きていくうえで「やさしさ」が生きる力になること、「コミュニケーション能力」とはそのような誠実さとやさしさが前提であることなど。「地上の星」として沼田先生は私たちに、「教育の原点」を指し示し、いろいろな改革の成果を遺してくださった。いま、私たちは悲しみを乗り越え、本学の教育の中で沼田先生の誠実さ、優しさ、情熱を受け継ぎ発展させていかねばならない。それが沼田先生に感謝を表す唯一の方法だから。沼田さん、ありがとう。どうぞ、安らかにお休みください。合掌。

# 司法試験合格

## おめでとうございます

11月10日(水)に本年度の司法試験合格者が法務省から発表されました。本学からは、法学部卒業生の宮里元子さん、田中円さん、山崎真也さんの3名が見事合格されました。

最難関の国家試験と言われる司法試験(今年度の合格率3・42%)に合格した3名の喜びの声を紹介します。



**宮里 元子さん**  
平成3年 法学部卒業  
都立国立高校出身

在学中は、アルバイトやサークル活動等に明け暮れ、法律にはほとんど関心がありませんでした。卒業後の進路の言い訳として司法試験受験も考えていたものの、数年間はフリーター生活を続けていました。次第に周囲に遊んでくれる友達が少ないなり、さすがに将来に不安を感じ始めたため、大学の法職課程の研究室に参加して刺激を受けたのをきっかけに、本格的に受験勉強を開始しました。

受験期間中は、途中仕事に就いたり、身体をこわして入院したり、と中断を挟んでおり、決して順調ではありませんでした。

今は正直言ってまだ合格の実感が湧いていないのですが、とりあえずホッとしています。家族をはじめ、周囲の方々からの励ましには本当に感謝しています。

在学中は毛塚勝利  
(労働法・現中央大学教授)ゼミ所属



**田中 円さん**  
平成10年 法学部卒業  
都立国分寺高校出身

もともと、一生働けるような仕事に就きたいと思っていました。何をやるにも大変なら、1番大変なことに挑戦するのと同じかなど。受験中は多くの仲間を支えられてきましたが、今年の後半は1人になって取り組みました。友達に精神的に依存しないようにと、あえて

司法試験にチャレンジしていた時から、おこる

ことなく常に謙虚に、間違えることなく物事に向き合う法律家になりたい、と考えていました。自分がどのような仕事に就くことになっててもそのことは必ず心に留めておきたいですね。常に謙虚たれと。

いつか、このために自分が法律家になった意味があったのだなと思えるような事件に出会い、その事件を解決できれば素晴らしいことだと思えます。

在学中は杉原泰雄  
(憲法・本学名誉教授)ゼミ所属



**山崎 真也さん**  
平成11年 法学部卒業  
埼玉県立飯能高校出身

今の心境は正直ほっとしています。受験生活をもう1年繰り返したくないというのが本音でしたので、大学3年の時に友人と一緒に勉強を始めて、今回が6回目の受験でした。

この試験は、受験するならばその年に一気に最終合格まで駆け上がるつもりで臨むべきものだと思います。でも知識の詰め込みだけでは無理で、体系・全体像を捉える勉強が必要ですから、1000m走でもマラソンでもなく中距離走のイメージで毎日テレビゲームをしたり、レンタルDVDもよく見ていました。

今後は、合格後の後付け理由ですが、人の役に立つてそれなりの生活が出来る弁護士になりたいです。人の役に立つてお金が貰えたらハッピーです。

在学中は阿部満  
(損害賠償法・現明治学院大学教授)ゼミ所属

# 吹奏楽部 全日本アンサンブル コンテスト出場

3月19日(土)に所沢市民文化センターで行われた、第28回全日本アンサンブルコンテスト(全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社主催)において、西関東代表として出場した本学吹奏楽部メンバーによる金管・打楽器8重奏が大学の部で見事銀賞を受賞しました。創部以来、初めて埼玉県代表に選ばれ出場した西関東アンサンブルコンテストでも金賞を受賞、勢いそのままに今回の銀賞受賞と輝かしい成績を修める事が出来ました。



(写真は西関東大会の様様です)

本学吹奏楽部は平成7年に活動を開始し、大学の学園祭や入学・卒業式演奏、定期演奏会(8回開催)、市内老人ホーム等の施設などで演奏活動を行うとともに、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテスト等へ積極的に参加してきました。これまでは、県大会止まりで専門的な外部講師の不在が挙げられていましたが、外部講師を頼らず自主練習で高い演奏技術と見事な表現力を築き上げ、創部10年目にして初めて全日本大会への出場、銀賞受賞という栄誉を獲得しました。



吹奏楽部長  
**長谷川真也君の話**

駿河台大学に入学した当初は全国大会に出場することなど考えてもいなかった。埼玉大学や文教大学などレベルが高く、県大会突破が一番の難関だった。しかし、メンバーにも恵まれ、毎日のように練習を重ねることにより、自信が付き、大会でも良い結果が残せるのではないだろうかと思えるようになった。今後は、今回の成績に満足せず、まだ突破した事のない吹奏楽コンクール埼玉県代表に向けて、常に向上心を持って取り組んでいきたいと思う。

演奏曲目、出場メンバーと担当楽器は次のとおりです。  
M・フレトリウス作曲「テルプシコーレ舞曲」よりエントレ、ヴォルト、カナリー、プーレ

【トランペット】

加藤 泰斗

(法律学科4年・私立狭山ヶ丘高校出身)

加藤 満

(知能情報学科4年・埼玉県立入間向陽高校出身)

大竹 光徳

(文化情報学部2年・山梨県立山梨高校出身)

【ホルン】

島田 彰寿

(文化情報学科4年・栃木県立宇都宮北高校出身)

【ユーフォニアム】

菅野 純子

(経済学科4年・埼玉県立入間向陽高校出身)

【トロンボーン】

長谷川 真也

(文化情報学部4年・私立千葉経済大学附属高校出身)

【チューバ】

荒井 貴行

(比較文化学科4年・私立白鷗大学足利高校出身)

【打楽器】

大賀 麻美

(経済学部2年・都立高島高校出身)

# 駿河台 スポーツニュース

【剣道部】

第52回全日本学生剣道全日本大会

男子団体 ベスト32

【男子ホッケー部】

関東学生ホッケー秋季リーグ 2部優勝

1部入替戦

【女子ホッケー部】

対東京大学 2対1勝利 1部昇格決定

【女子バレー部】

関東学生ホッケー秋季リーグ 1部2位

【野球部】

東京新大秋季リーグ2部 7勝2敗1分2位

【サッカー部】

埼玉県立大学秋季リーグ1部 5勝2敗 3位

# 平成17年度同窓会総会開催

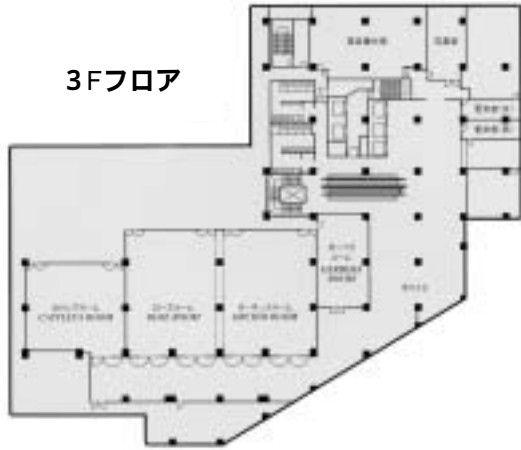
## ホテル海洋にて

平成17年度の同窓会総会を平成17年5月14日(土)に新宿区百人町にありますホテル海洋(JR新大久保駅徒歩5分)にて開催いたします。

今回も例年ご好評を頂いております都内新宿区にて開催いたします。(今年度も駿輝祭時にはホームカミングデーとして会員の皆様をご招待し、懇親会を行う予定です。ご参加ください。)

総会では、平成16年度の決算報告、平成17年度予算及び事業計画等を審議します。更に昨年度から取り組んでいます同窓会名簿の進捗状況を報告する予定であります。

また懇親会では、紙面にご紹介していますアンサンブルコンテストにおいて念願の全国大会出場を果たした、吹奏楽部の演奏を予定しております。昨年度以上の皆様のご出席をお待ちしております。



〒169 8507 東京都新宿区百人町2丁目27番7号 TEL.03 3368 1121 FAX.03 3368 6551

J R 中央・総武線大久保駅より北口下車徒歩1分

J R 山手線新大久保駅より徒歩5分

都営大江戸線新宿西口駅D5より徒歩10分



開催日：平成17年5月14日(土)  
場所：ホテル海洋

3F ローズ(総会)  
3F オークツド(懇親会)  
東京都新宿区百人町2 27 7  
TEL03 3368 1121

時間：総会 15時  
懇親会 16時

会費：1人3000円  
(総会のみ出席の方は無料です)

### 同窓会名簿作成進行状況について

同窓会名簿作成につきまして、住所等の確認作業にご協力いただき、ありがとうございます。

1・作業進捗状況

住所等確認はがきの返信状況は、2月末現在以下の通りです。

【はがき発送】	
発送月 7/11月	12月
枚数 1,740	489
1,371	1,621
1,522	1,522
合計	合計
3,156	3,156

【はがき返信】	
返信月 7/11月	12月
返信枚数 1,774	240
414	728
合計	合計
3,156	3,156

以上の通り、返信はがきは約20%の回収率です。この中には、名簿不掲載希望の方もいらっしゃいますので、掲載率は更に低くなります。

今回の調査により、従来、不明だった方の住所確認も行われ、同窓会員の住所データとしては、整備が進み、誰かどこに住んでいるかということについては9割以上把握することができました。

しかし、名簿という形で発行するためには、掲載についての本人の意思確認が必要です。また、住所や掲載意思の確認は、電話による確認ではミスが発生することが予想され、また、掲載・不掲載の希望についてもご本人の意思表示を記録として残したいため、どうしてもはがきで行わざるを得ません。つきましては、当初の予定では、3月末に発行予定でしたが、予定を延ばし、もう少し住所確認作業に時間をかけ、はがき回収率を上げたいと考えております。

2・今後の予定

この会報にも住所確認用はがきを同封しておりますが、基本的にこの調査をもって住所等確認作業は終了する予定です。夏頃には皆様に購入についてのご案内を行い、9月末には発行したいと考えております。

しかし、あまりにも掲載率が低い場合は、発行について再検討する予定です。名簿の不正流通を防止する意味もあり無料配布は行わない予定です。

3・個人情報の取り扱いについて

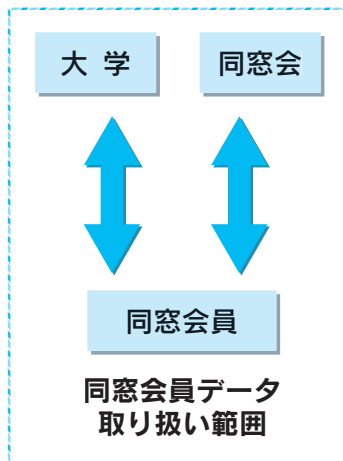
皆様の個人情報につきましては、以下のことに

限定して使用するものとし、無断で第三者への提供は行いません。同窓会報の発送等を業者に委託する場合は、個人情報の取り扱いについて書面等を取り交わし、厳重に取り扱います。

同窓会業務に係ること。

- 例・同窓会報の発送
- 例・同窓会総会など同窓会行事の連絡
- 他の同窓生から住所等の照会があった場合の事務局からの確認
- 大学業務に係ること
- 例・就職関係業務
- 例・ガイダンスへの出席依頼
- 例・入試案内パンフレットへの掲載(了承者のみ)
- 例・メディアセンター関係業務

【同窓生に対する入館証発行のための本人確認】



4・名簿作成業務委託業者について

皆様より、同窓会事務局に対し、名簿作成業務委託についてのお問い合わせをいただいております。

今回の名簿作成にあたっては、(株)セブンワンに業務委託をしております。会員の皆様に対する確認はがきの発送、電話による確認はがきの返信状況確認等を行っており、また、データベースの作成、管理も行っております。

契約に際しては、契約書及びこれを補完する業務処理要領にてデータの取り扱いを定め、厳正を期しておりますので、皆様のご協力よろしくお願いたします。

(事務局)